

第28回アクラスZOOM寺子屋「感想」

お世話になりました。いろいろと思い出しながら参加させていただきました。今回のテーマとは関係ないのですが、アメリカなどからいらっしゃる学習者は、大学の単位登録の関係か、たとえばアメリカの大学でレベル3をとったから、日本ではレベル4だと言って登録されることが多いです。海外のレベル3は、実際には日本の初級レベルなのですが、登録しようがないとか…人間中心でない大学間登録システムに問題があるのかもしれませんが、その辺のレベルのギャップを来日前に認識して置いていただけたらなとも思います。双方の大学間で、事務登録上も、参照枠のレベルで考えるようになると、よいのかもしれませんがね。私の勤める大学は、学習者の自由選択なので、いつもめちゃくちゃなレベルの学生らが混在する中級を担当していて、教師、当人、周りの学習者、3方向にとって無駄な時間になることを防ぐことで頭がいっぱい。おかげさまで、今日は、いろいろと、知っていたのに忘れていたことを思い出したり、これまでやってきたことを確認できたり、脳も気持ちも活性化できました。ありがとうございました。また嶋田先生の頭の回転の速さにも、相変わらず脱帽でした。お二人の先生方と嶋田先生に、たくさんの感謝を！

日本語参照枠を意識した学習に大きくシフトしようとしているタイミングでのこのテーマ。
大変参考になり、貴重な機会を得たと感謝しております。

学習者のレベルに合わせて、目標・ゴールを明確にしそれを教師と学習者で共有することの大切さを痛感しました。今日の学習で何にチャレンジ(i+1)するかということ
を常にクラス全体で意識するよう心がけ、授業終了時に「できたね！」を笑顔で共感できる時間を過ごせるよう工夫したいと思います。
文法は「名脇役」、決して主役にしてはならないということ。
インターアクションの具体的な方法、例えばジグソータスクなどもとてもいいツールだと思います。是非実践してみようと考えています。

BORで一緒した皆さんのご意見も貴重なものでした。ありがとうございました。

今日は大変勉強になりました。ありがとうございました。
会話授業の難しさを改めて感じましたが、教師の仕掛け次第でよりよい会話の場づくりができると気づきました。また、目標設定とその共有が重要だと学びました。
今後、会話授業を上手にデザインできるようがんばります。

今日は寺子屋に参加させていただき大変ありがとうございました。超級を目指す学習者へのフィードバックをどのようにしたら良いか悩んでいたのが、直接三浦先生に質問
させていただくことができ、解を得ることができました。また高見先生の常に”目標を提示し、それを学習者と握る”こと、改めて認識しました。
今日の学びを日々の授業へ早速反映していこうと思います。ありがとうございました！

初級クラスと一緒に、会話能力を高めるためにどうすればいいのかが悩んでおりましたが、足場掛けの手段のヒントを沢山学びました。大学へ進学するより、専門学校
への進学を選んで、日本在留期間延長を目的にしている留学生にも、コミュニケーション能力を高めることを目的に指導することに挑戦します。そして、自律的にキャリア
を考えることを学んでもらいます。本日多くのことを、楽しく学べたことを心から感謝いたします。ありがとうございました。

現在、日本に駐在予定の公務員へのプライベートクラスがメインになっております。もちろん出来得る限りのインターアクションを心がけているつもりですが、本日の講義
を通してたくさんの示唆をいただきました。プライベートクラスですとどうしてもティチャートークの会話になりがちですが、プライベートクラスであっても、もっともっ
と日本語を使う場面を工夫できるのではないかと気づきました。優秀な方たちなので、「文法(表現)を納得できるように教えるのが教師であるある私の仕事、母国が設定
する基準の試験に受かるよう、できる限り力添えはしますよ。でも、その後の発展はご自分の努力次第」と思う気持ちがどこかにあることは否めません。反省しきりです。
本日の研究会で得られた知見を活かしていきたいと思っております。

本来いちばん多様性への理解があるべき日本語教師が、学生を管理するような教育を行っている現状を危惧していたので、今日は本当にすっきりしました。具体的なアイデアもたくさんいただき、ありがとうございました。嶋田先生がOPIやCEFRに関する多くの発信をしてくださっていて、『できる日本語』の理念を理解して導入する学校では教師もかなり変わってきています。一方で、養成講座ですら「既習の語彙のみで」「文型を使えることが模擬授業のゴール」としているケースもまだまだあり、その根深さを感じています。私は現在松本市の教育委員をしていますが、小中学校の先生ですら？クラス内自由進度やICTの活用など子どもを真ん中に置いた授業改革を積極的に進めており、先進的な取り組みには市教委が予算をつけてバックアップしています。嶋田先生がおっしゃったように「日本語教育が日本の教育をリードする」ようであれば！と思います。かつて水谷修先生も「日本の英語教育は日本語教育から学べばよい」とおっしゃっていたのを思い出しました。国内の日本語教育機関は目下「認定」という目先のことに汲々としていますが、今こそ教師が変わり、授業が変わるチャンスで、PBIの手法をぜひとも取り入れたいと思いました。寺子屋が終わって、ご著書をもう一度しっかり読み返しています。本日はありがとうございました。今後ともよろしく願いいたします。

本日は本当に勉強になりました。

特に、ACTFL OPI 2024年版に基づく初級・中級・上級・超級の定義が理解できました。

ですから、定義を基にして今後も学習者の対話能力の指導を行って行きたいです。

そして、特にベトナムの初級者の指導でも「この言葉や表現はまだ習っていない！」という先生がいらっしやいます。わたしは学習者にとって必要な言葉は躊躇わず教えます。

先生には必要ないかもしれませんが、学習者にとって必要な場合がありますから。

途中からの参加になってしまいましたが、とても密度が高くいい刺激になりました。私はアメリカの大学でACTFL OPIの上級から超級になる学生を長年 教えています。このレベルになると教科書を使わなくても特に問題はないのですが、初級レベルだと教科書を軸にProficiencyを重視するアクティビティや評価を入れていくのは難しいのではないかと思います。皆さんの感想を聞いていました。日本国内の日本語教育現場の様子が少しわかって勉強になりました。三浦先生と高見先生とは20年以上のおつきあいですが、実はおふたりの講義を聞く機会がほとんどなかったのが、貴重な体験をさせていただきました。おふたりの教育理念がよくわかってよかったです。

昨日は、ありがとうございました。初級から中級へ、中級から上級の会話の目標がはっきりしました。文法と語彙を増やすだけでは身につかない、学習目標を立てて、学習活動をデザインする、は実践したいと思いました。

日本語学校と日本語教室では、悩んでいることがかなり違いました。それとテキストありきでの会話とテキストなしでの会話では、取り組み方も違います。

テキストを使っていると、どうしても短い文のやり取りで言えた！となってしまう。もっと、言えることがあったら、行って見ようという雰囲気を持って行けるといいのかなと思いました。積極的に話したいという学習者は良いのですが、指示した会話しかない学習者には、どう対応したらいいか悩むところです。

読み物を使った授業をもう少し聞きたかったです。ジグソーは面白いと思いました。初級でもできますか。どんな内容だといいのでしょうか。

少しずつ、やってみたいと思いました。

まだ、頭の中で纏まっています。いままでやってきたことの振り返りにもなり、大変勉強になりました。ありがとうございました。

3つの気づきをいただきました。

1つ目は、「教科書と対話する」です。もっと深く教科書を読みこみ、そこからどのように広げていくかをしっかり考えていきたいと思いました。目の前の受講生に合ったタスクを考えることで、プロフィシエンシーが高まるということ。

2つ目は、「学習者とゴールを共有する」です。今、『まるごと』を使っていて、毎回ゴールと一緒に確認していますが、今後は学習者の文脈に合ったゴールを設定し一緒に確認したいと思いました。

3つ目は、上級から超級へ行くための教師のフィードバックや問いかけの大切さです。Newsを使ってのディスカッションでいつも表面的な対話で終わってしまっているの、学習者が問いを立てるときにもっと丁寧にディスカッションが深まる問いとはどのような問いか、そして問いの提出順序はどうしたら効果的かもっと話し合ってみようと思いました。ありがとうございました。

<p>嶋田先生の凛とした明るさと、三浦先生と高見先生の「型にはまらない」教育の芯をとらえた視点とユーモアにより、Zoomにもかかわらず、終始、ポジティブなエネルギーを受け取らせていただきました。私にとっては大変久しぶりのアクラス寺子屋で緊張していたはずが、開始後すぐに魅了されていました。</p> <p>勤務する一校では文法積み上げのテキストを使用し、また、別では独断に委ねられ授業を組み立てておりますが、どんな方針の場であれ、言語教育に大切なことは何かを三浦先生が爽快に明言してくださり、大変貴重な時間でした。とりわけ「文法は名脇役」「教科書はウルトラマン」というお言葉は今後も明るい記憶とともに灯火のように私の思考を照らし続けるでしょう。</p> <p>両先生がそれぞれのレベルで、プロフィシエンシーを高めるための活動について具体的にお話くださったことにも感謝しております。ジグソーリーディングで、自身の学生の活動を見て悩みに感じていたことがありましたが、高見先生の、具体的な活動指示の仕方をお聞きできたことが大きなヒントとなりました。ご著書にも詳細にご説明くださっていますが、寺子屋に参加したからこそお聞きできた収穫です。</p> <p>その活動に至るまでの目標の共有や足場架けについても、お二人の先生がどのように捉えて、されていらっしゃるかをお聞きでき、新年度を前に、自身のやる気を新たにでき、背中を押していただけたことに感謝しております。</p> <p>この度、寺子屋に参加させていただき、心よりありがとうございました。</p>
<p>初級の段階では、既習の文法項目を使用して正確に発話することが評価の対象となりがちで、ぎこちないコミュニケーションでも可とすることがある。しかし、実際の場面ではコミュニケーションが重視され、インタラクティブな会話である方が重要である。これまで、指導する側としては、テキストありきの授業になりがちであったが、現実社会で取り上げられる話題にも積極的に触れていこうと思う。そのため、初級であれば、初中級へ、中級であれば、中上級のための発話の熟達への到達目的を意識してスキャホールディングを行うことを心掛けたい。</p>
<p>嶋田先生、三浦先生、高見先生、ありがとうございました。</p> <p>日本語学校で主に中級を担当しています。学校の目標がJLPTの合格なので、文法、語彙、漢字学習を重視し、文法や語彙の仕上げは短作文ができることです。JLPTの合格率は高いので、学校の目標はある程度達成しています。</p> <p>けれども学生たちは、勉強の日本語ができて、バイト先や日々の生活で日本人と会話できないと訴えてきます。JLPTの合格とコミュニケーションができることの溝をどう埋めればいいのか、ヒントがいただきたくて参加しました。</p> <p>グループ活動、ジグソータスク、学習目標を学生と共有する、授業を学生と作っていく...等たくさんの興味深いお話を聞く事ができました。今のカリキュラムの中に、小さな仕掛けをいろいろ作ってみたいと感じた講座でした。</p>
<p>三浦先生、高見先生、PBIによるレベルアップのポイントを教えてください、ありがとうございます。ご著書でも拝見していましたが、今一度大事なことが心に刻まれました。</p> <p>文法積み上げ思考から抜け出せない方へどう伝えたらいいか、たくさんのヒントをいただきました。例えば、文法は言語を使って「機能」するための「名脇役」という例え、とてもわかりやすかったです。また、せっかく行動中心アプローチのテキストを使っている方も、文レベルの教え方をしてしまう方には、「習ったものを組み換え、自分の言いたいことが言えるように教えて」と伝えるとよさそうです。高級な文法を知っているだけではなく、その文法を使って「何ができるか」を知っていることでプロフィシエンシーが育つのだというお話にも「はっと」させられました。</p> <p>「学習目標」を学習者にも伝え、今学習していることの意義を理解してもらったうえで学習に取り組んでもらう教師の働きかけも大切だと感じました。高見先生が見せてくださったの評価項目の例に、「機能の達成度」、「正確さ・理解難易度」、「語彙のレベル」と並び、「クラスメートへのコメント」が入っていたのも目を引きました。ピア評価の力を育てていくと同時に自己評価力もアップし、ひいては、学習者オートノミーも高めていけそうだと感じました。</p> <p>レベル別にお話ができるBORも有意義な時間でした。嶋田先生、様々な方とつながり、学び合いができる貴重な機会を作ってくださいありがとうございました。</p>

<p>今回の寺子屋も、本当に勉強になりました。</p> <p>三浦先生がおっしゃっていた、「教科書はウルトラマンのようなものだ」というお言葉は、とても深い意味が込められていて印象的でした。</p> <p>教師が「教科書を教える」のではなく、「教科書で、何を教えるか」、またウルトラマンの後始末(闘った後)のように「どうまとめるか」も考えなければならないことを再認識しました。</p> <p>また、高見先生がお話しになった中では、ジグソー法による読解ワークが、とても興味深かったです。</p> <p>メソッドとしては知っておりましたが、今の勤務校では実践したことがなかったので、今後取り入れてみようと思いました。</p> <p>全体を通して、初級、中級、上級、そして超級まで、各レベルで「次のレベルを意識した」授業をしていくことの重要性を改めて感じましたし、ブレイクアウトルームで他の先生方とお話ししたことで、情報共有や新たな情報を得ることができたのは本当に有意義だったと思います。</p> <p>貴重な経験ができ、本当に参加してよかったと思っております。</p> <p>講師のお二方と、今回の企画をしてくださった嶋田先生に、改めて感謝申し上げます。本当にありがとうございました。</p>
<p>現在勤務校でOPIの考え方に基づいた日本語研修を主にビジネスパーソン向けに、初級から超級まで実施しています。私にとって大変タイムリーで多くの示唆を得ましたことを感謝しています。手探りで研修を組み立てながら進むことが多いため、特に生教材のトピックについて情報共有できてよかったです。私のところでは、上級から超級では生教材でも新聞記事やニュースでは文体が限られるため、所属校の講師が活用できる聞き取り&読み物を作成したりしています。また、語彙力増強に主体的に取り組んでもらうため、受講生と語彙リストを作りながら研修を進めていく活動などを実施しています。先生方や参加者の方々と授業例などもっと共有できたらよかったですが、話が尽きず時間となりました。有意義な寺子屋でした。ありがとうございました。</p>
<p>内容充実、そして参加中も参加後も楽しい気分になれる会でした、ありがとうございます！</p> <p>教科書はウルトラマン、中級の森の歩き方、教科書との対話など、これからぜひ心に留めておきたいキーワードをいただきました。考えを深める際に、キーワードが助けになります。</p> <p>日本語教育の参照額とPBI、どちらでも目標を学習者自身に落とし込むこと、そのために評価の枠組みづくりが重要なのだと理解しました。学習者主体という言葉は、いろいろに感謝されますが、やはり自分自身の中に羅針盤を持ってもらうことが1番強い動機付けを強めるとその重要性、ということでしょうか。</p> <p>寺子屋時間はあっという間に過ぎますが、その前に課題について考えること、その後に課題での気づきを自分の活動とどう結びつけるのか、事前事業を生かすことで寺子屋効果を高めたいと思います。</p>
<p>PBIは学習者の話す能力を伸ばすための効果的な指導法であり、ACTFLガイドラインを指針としているため、改めて話す能力の評価基準を再確認する機会となりました。あるレベルに到達するためにはどのような能力が必要なのかを教員がまず正確に理解した上で、学習者に適切に目標を示し、その結果、何ができるようになるのか(機能)を伝えていくことの重要性も再認識いたしました。今後は、各レベルの授業において、どのような活動を取り入れることで効果的な授業ができるのかを検討していきたいと考えています。その際に必要な多くのヒントをいただき、ありがとうございました。</p>
<p>楽しい時間をありがとうございました。興味深いお話が伺えました。</p> <p>『PBIによる日本語教育の実践』の構成も、実践の方法も、ACTFLプロフィエンスの基準に対応しているので、「OPIによる会話能力の評価」をもう一度確認してみました。またACTFLとCEFRのレベル比較、そして日本語参照枠についても考える機会となりました。</p> <p>話す能力を中心とした言語能力である「プロフェンシー」を伸ばす授業は、教師にとってもやりがいがあると思います。</p> <p>『できる日本語中級』L11~L20で実践してきた活動をイメージして、中級レベル指導案を話し合うBORに参加してみました。『PBIによる日本語教育の実践』では第3部中級レベルの指導が「中級から上級へ」だけではなく、「中級-下から上級」「中級-中・上から上級」「ナラティブ」と分かれて具体例が示されているところがいいと思いました。しかし、BORでは対象とする学習者の到達目標やレベルが様々であるだけに、まとめるのが大変であったように思います。</p> <p>日本語教育の実践には、教師が学んだり、情報を収集したり、インプットが欠かせないと思います。今回の寺子屋もとてもいい刺激となりました。</p>

とても楽しく、和やかな雰囲気があり、研修が終わった後にはすっきりと、前向きな気持ちになりました。本当にありがとうございました。

授業を行う際は、学習者が今できることは何なのか、次のレベルに進むためには何ができるようになることが必要なのかを知ることが重要だというお話を聞き、現在行っているプライベートレッスンにも応用して、授業計画を見直してみたいと思いました。

初級の授業でも、真正性のある会話を目指すことが必要であるとのことでしたが、場面シラバスでの会話練習とどう違うのか（あるいは同じなのか）、実際の授業でどう展開していけばよいのか、自分自身では授業まで落とし込めないと感じる部分もありました。さらに勉強して、実践して、授業に生かせるようになりたいです。

また、既習/未習にこだわると学習者もそのように育ってしまうという指摘に反省しました。前職で新人教員の研修を行っていたときは、既習かどうかを過度に気にして教案をチェックしていました。これからは教師の側もコミュニケーションに焦点を当て、目的が達成できるかどうかを中心に考えていきたいと思います（学習者に理解してもらうために未習語彙に気をつけるのは、今まで通り必要かなと思っています）。

ワークショップでは、現役の日本語教員の方々と交流をすることができ、それも楽しかったです。その中で、上記の「今できること」とレベルアップのために「何ができることが必要なのか」を学習者と共有すること、1つ1つの学習が何を指すものなのかを示すことが重要であることを再確認できました。

本研修の教材となった『PBIによる日本語教育』には具体的な授業案が数多く記載されており、とても勉強になりました。自分の授業でもぜひやってみたいですが（開校申請中のため、今は授業がないのですが...）。

このような研修の機会をいただき、感謝いたします。今後も機会があればぜひ参加させていただきたいです。

言葉は、不完全ではあっても人と人とのコミュニケーションの手段であると思います。ですから、プロフィシエンシーを伸ばし、話す能力を培うためにどうすれば良いのだろうか、と姉に考えてきました。

今回の研修で、他の先生型と話す機会をいただき、様々なヒントをいただくとともに、自分自身もまた、新たな気持ちで学習者と向き合い、互いの「ことば」を大切にすることを実践を重ねたいと改めて感じました。

貴重な機会をアレンジしてくださった嶋田和子先生、本当にありがとうございました。

まだ、高見先生にも本当に久しぶりにお目にかかれて(おおらかな笑顔+笑い声)本当に元気をいただきました。

また上級レベルでご一緒くださった先生方と三浦先生、本当にありがとうございました。

この本を、学校の先生方にも一読していただこうと思っています。

明日からもまた頑張ります！！

海外にお住まいでお忙しい中、明るく楽しくお話を聞かせてくださってありがとうございました。

気をつけてはいても、普段、運用力を重視した授業ができているのか、また、初級から中級、中級から上級へと、学習者の力を伸ばせる工夫ができているのか、そのような点を振り返りながらお話を伺いました。お話を伺って、今までのやり方は間違っていなかったと安堵しながら、これからの工夫も考えさせられる時間になりました。

三浦先生、高見先生、今回は貴重なお話、そして自分自身を振り返り考える時間をいただき、ありがとうございました。

CEFRは「場面」がより細かく規定されている一方、ACTFLは「機能」についてより細かく規定されているという対比関係を見出したことが一番の発見でした。CEFR（あるいは参照枠）を理解していく際、この点を踏まえ、幅のある表現をACTFLの記述で読み替えるなど、両基準を相補的に用いながら教育実践を行っていきたいです。

2025年3月2日の寺子屋の参加を通して、時期を得た学びを得ることができました。嶋田先生、三浦先生、高見先生、貴重な学びの機会をいただきまして心から感謝します。

理論と実践の関りや具体的な可能性について手ごたえを感じました。学生たちに学びを獲得してもらうために様々な方法でアプローチする中で、時として裏付けとなる理論の知見がなくてもそれと同じような試みをしていることに後で気づかされることがあります。今回そのことをPBI(Proficiency-Based Instruction)のレクチャーを具体的に示していただきながら感じ嬉しく思いました。詳細には及ばないものの授業展開でPBI的な実践をしていたと自負したからです。さらにPBIについて学んだり実践したりして自分なりに理解を深めたいと思います。

私個人の現状でのTeachingは英語教授のほうに重点が移っており日本語はPrivate Lessonのみ長きにわたって継続しています。今回、日本語のクラスを中心に想定した実践的な教授法のご紹介だったので日本語のクラスを今担当していないことが残念に思われました。しかし初級、中級、上級それぞれの学習対象者へのアプローチや彼らのゴール設定を見据えての具体的な実践例は非常に有用なものでした。彼らが今、言語を使って何ができるのか、どういうことを目指しているのか、次のレベルに向かうためにはどういうことをしていかなければならないのかの認知が要です。PBIの、実践者が実社会での言語運用力を身につけさせる授業法において、学習者個々の力に応じてどのような学習活動をデザインしていったら良いのか、また、各レベルから次のレベルに移るときの促しやスキャホーディングの緻密な計画や実践などバックワードデザインの重要性を見なす必要性を痛感しました。

現在プライベートレッスンを続けているフランス人の2名は、1名は初級から中級へ、もう1名は中級から上級へレベルが向かっているところで、レクチャーに変化をつけていくために必要な俯瞰した学習デザインに行き詰まりを感じていたところでした。

この数年、言語教育に関わりながら問題を感じているのは学びの'定着'の弱さです。英語のクラスを持っている学生たちに対してもさまざまな教育の手法で有効と思われるものを工夫しアクティブラーニング主体の授業を展開しています。しかしコミュニケーションを図りながら言語の運用力を高めるアプローチと、ある意味で知識の伝達とその繰り返しによる刷り込みのようなものの両輪がないと学生の長期的な記憶に結び付かないことも実感しています。それらも踏まえてさらに有機的なPBIの実践に取り組んでいこうと思いました。考え深い講義のご紹介をいただきましてありがとうございました。